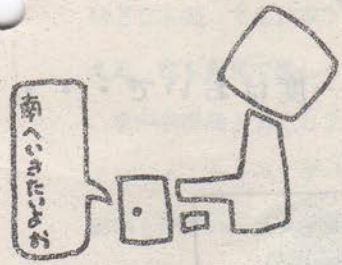
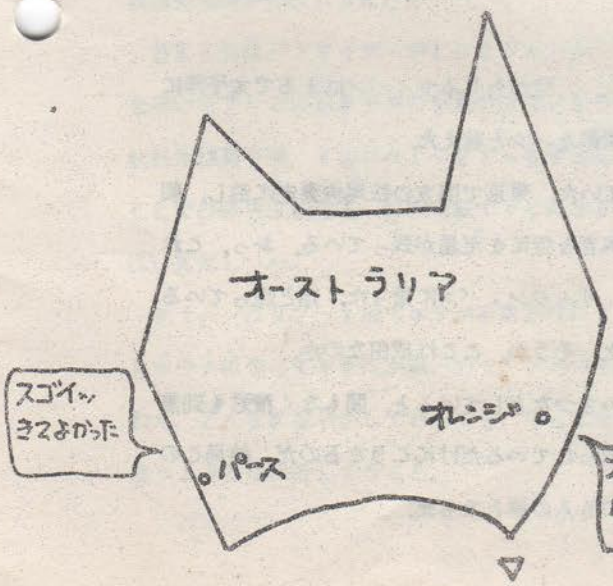
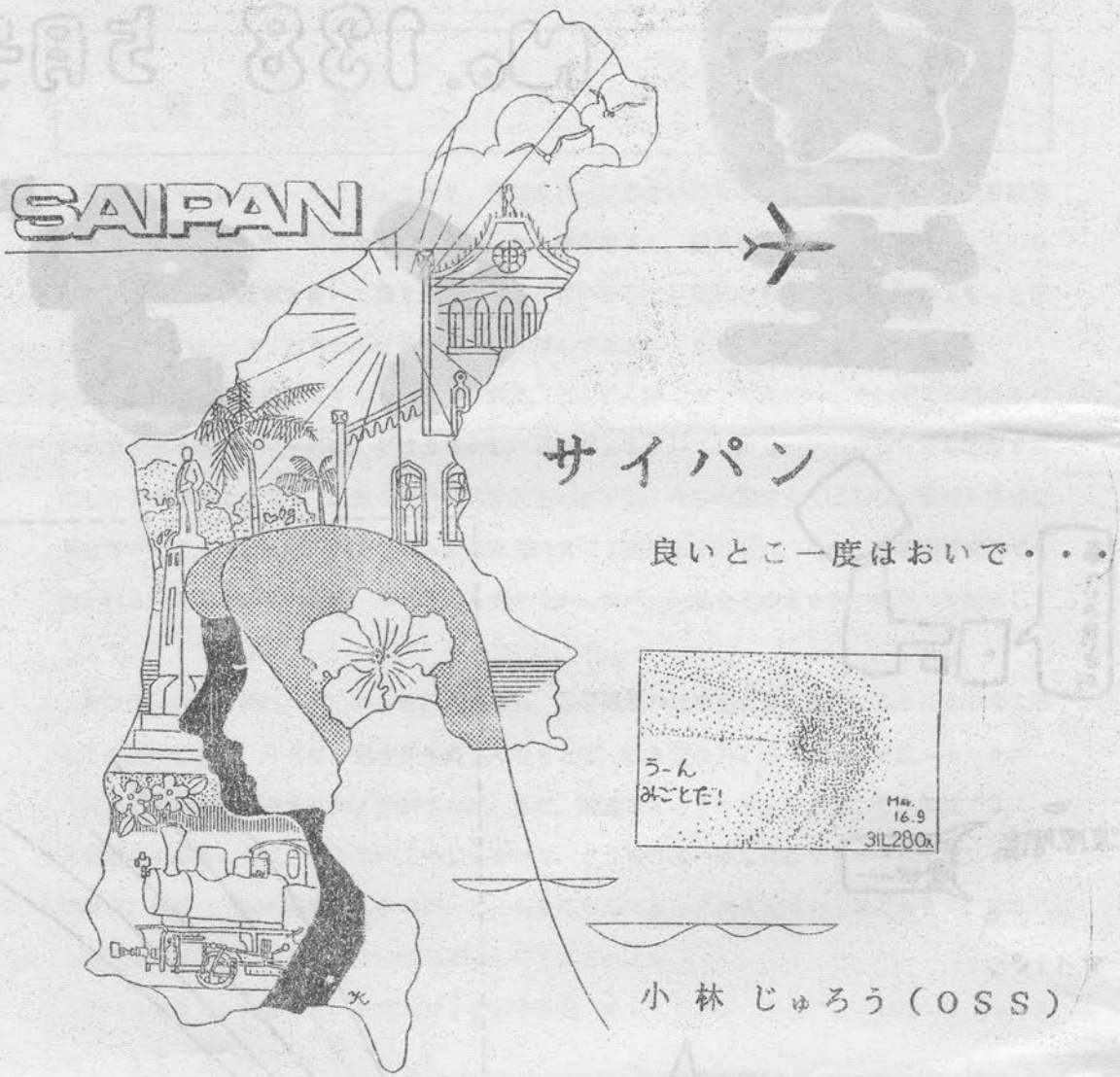
星くず

No.138 5月号



1986・4・10
23:00～23:08（西部オーストラリア標準時）
ニコンFE2 200mm
SR 1600
（オーストラリア・パース）





サイパンはただのパンにあらず，さいはてのパン・・・，空から見るサイパンはまるで太平洋に浮かんだステーキ・パンのようだった．確かにそこは素敵なパンと言えた．

熊本を発ったのは3月2日，日本は厚い雲に覆われていた．東京で旧友の松尾夫妻宅に泊し，朝5時30分起床し，成田へ向った．東京の空は快晴，真青な空にまだ星が残っている．おっ，これならTOKYOでもハレーが見えるなどと考えながら，リムジン・バスに乗った．殆ど眠っていると突然起こされ，ものものしい機動隊の検問が行われた．そうか，ここは成田なのか．

8時に成田に着くと，もう冨田先生が来ていた．あいさつなどしていると，間もなく清君も到着した．別に打合せをしていたわけではないが，便数が限られているだけにこうなるのだ．結局この日の仲間は，小林君・冨田先生・清君・鈴木君と筆者の5人の旅となった．

ヒコーキは727，1000テイク・オフ．北緯30度を切る頃から洋上に雲が増え，イヤな予感がする．海が見えたり，雲海になったりすること3時間半，サイパン島が見えた．リーフがキレイだ．おっ，これがサイパンか，窓からしばらく世話になる土地をじっと見る．異国に足を下す前のちょっとした緊張感が身をひきしめる．いささか乱暴な旋回降下をして，あれ，と思ううちに着陸した．今日からのサイパンの人ぞ，ハファ・ダイ！

東京を出る時は冬服，ここは気温28度の夏，いや暑いの何のって，おまけに湿度も高くてメガネが曇る．無事税関も通過してビルの外へ出ると，小関君と浜田君が迎えに来ていた．とりあえず荷物を置きに，キャピタル・ヒルのフレーム・トリー・アパートへ向う．サイパンは公共交通機関と言えるのはTAXIくらいしか無くて，住民の足は殆ど車になる．当然と言えば当然ながら車は殆ど日本製，でも日本みたいに悪しき車検やら規制が無いので，同じ国産車なのにアカヌケして見える．色も豊富で楽しくなる．勿論右側通行の左ハンドルだ．

車が必需品と言えるように，エアコンもまた必需品の一つだ．この暑い，一年中夏の島にはねえ．フレーム・トリー・アパートも各部屋にエアコンが着いていて，一日中回り放し‥，でも電気代が安い（ひどい所はメーターも無い！）らしく誰も勿体ないとは言わない．そう言えば，電話も島内はタダで基本料金だけというから変な島だ．電気だって多分火力発電だろうからコストも結構かかると思うのだけれど‥‥，ついいつもの心配性が出てしまう．まあ，いいか，ここはサイパンなのだから．

夕食はガラパン（サイパンで一番大きな町で，キャピタル・ヒルから車で5分！）のキング・フハッシャーというレストランへ行った．ここは，先発組が見つけていた安い，うまい，量が多いの良い所，サイパンではすっとお世話になってしまった．何でも経営者が日本人でトミタというので冨田先生がお気に入りだとか‥‥．

BEERはバドワイザーが1.00ドル，キリンが1.25ドルだから安い．スーパー・マーケットを歩いてアサヒが0.5ドルのを見つけて，もう毎日水分はBEERばかりだった．だって，この島飲料水は買う物，1ガロン1～2ドルもするんだもの‥‥．それに飲酒運転の取締りなんてないしここでは筆者は観光客，飲酒運転でクビになる心配も無いとくればねえ‥‥．食事も5ドルも出せばOKだし‥‥．

サイパンはリゾート地でホテルもあるけれど，筆者は夜星を見て，昼は休むというパターンだからホテルに泊っても意味が無いので，アパートにしたわけだけど，このメイド付アパートって良いねえ．どんなに散らかしてあっても，帰って来るとキレイに片づいている．ウン，いつかメイドを雇うような生活をしようっと．

食事を終えて外へ出てみると，おやっあの明るい星は何だと思って確めてみると，それはカノーブスだった．カノーブスは青白い星なんですよ．ではアケルナルはと捜してみたが季節柄さすがに低くて見つけることは出来なかった．

アパートから車で15分も走るとサイパン天文台に着く．この天文台は日本全国の星仲間が海外に観測地点を持とうとお金を出し合って建設した民間天文台だ．ここには2つのドームがあって，1つには25 cmF 2.5 シュミット・カメラと31 cmF 7 反射が納まっている．このうち31 cm反赤は熊本県民天文台の31 cmと姉妹機で，ミカゲの30 cm架台に面村鏡の組み合せとなっている．この仕様に関しては筆者も同じ機械の連続観測という意味で意見を申しておいたものだ．口径比がF 7と長いのはジェット気流とは無関係のサイパン好気流を生かす為に設定した．高分解能写真を得ようという意味だ．この他にも45 cmドブソニアンや小望遠鏡等多く用意されている．

元東京天文台の冨田先生はここに高橋のE 3 0 0を2連にしたカメラを変形ヨークに乗せたアストロ・カメラを持ち込んでいた．と言っても確かに持ち込んでいただけでまだ組み上っていない．電気水道もまだ届いておらず，残念乍ら文化的生活とは言えない．そこで冷蔵庫（BEERを冷すのに是非必要）位は動したいし，望遠鏡のモーターも動したいので，ホンダのデンタという発電機を使うことにした．夜市で使われているアレだ．

とまあ，これ位書けばサイパン天文台の概要がお判り頂けたと思う．

夜になって空を見上げていると南十字が昇って来た．インドネシア日食以来だから3年ぶりの再開だ．η・カリーナもωCenも輝やいている．しかし，何とも雲が多くて写真は撮れない．

朝3時半雲が切れ始めた．ヤシの木が目印となっているハレー彗星の予報位置を見ているととうとう雲の切れ間からハレーが見えた．黒い空にくっきりと浮かんでいる．見慣れたやぎ座のα・β星も見える．31 cmを覗くと，高度も十分あるので熊本でのかげろうの中の像とはまるで違う．早速スケッチというわけだが，そうはうまく行かない．半分あきらめていただけに七ツ道具が荷物の中だ．時間が惜しい．メンバーもたくさん居るので，一人で占領するわけにも行かず，とりあえず，急いで仕上げ無しのスケッチを行った．まだ一週間あることだしと，その後小関君の直焦写真にゆずった．

こうしてサイパン一日目の仕事が終えた．

疲れた体でアパートに帰ると皆眠り込んでしまった．夜ゴソゴソ動き回って，昼は死んだように眠る‥‥，まるでゴキブリだね．

昼すぎ起きて，キング・フィシャーで昼食を取って天文台へ行く．冨田先生のアストロ・カメラの組み立てやらトイレ・ハウスの建設などやることは山程ある．バックのツァーみたいにお客様と

ただノンビリしているわけには行かない．天気は相変らず悪く，時々スコールがやって来る．地元の人に聞くと滅多にない異常気象という．こう天気が悪くては遊ぶ気にもなれず，晴れた時の為にとひたすら眠ることに努める．

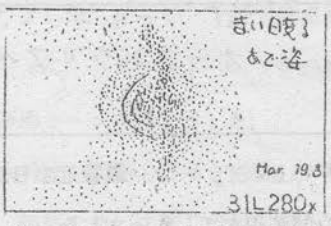
冨田先生のアストロ・カメラは神和光器の小林君（冨田先生は小林さんが二人でいるので君とさんで呼びわけていた）が順調に組み上げた．力仕事の時には私達も呼ばれてどっこいしょ．名古屋港から運んだ梱包の木枠はトイレ・ハウスに化けた．白いペンキも塗られて天文台は南国の地に異彩を放った．

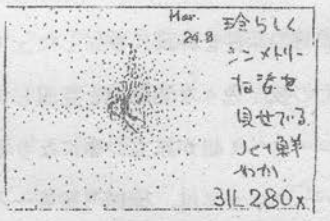
一足先に小林君が帰るというので，皆で島内観光をした．バンザイ・クリフ，ラスト・コマンド・ポスト，スーサイド・クリフ等々，戦中派の人には忘れられない戦跡も巡った．平和なこの青い海の小さな島も歴史は容赦しなかった．

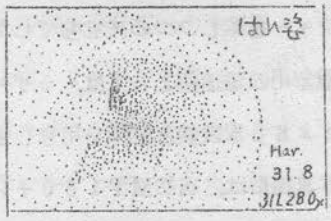
天然プールやらバード・アイランドと巡るともう観光はおしまい．後は軍艦島でダイビングでもしないとすることはない．おっと忘れていた．島内一の高山タポチョ山，といっても500メートルもないけれど，へのダートをレンタ・カーで登った．頂上から見ると島内が全部‥‥というより四方の海が良く見える．しばしBEERを飲みながら休憩した．日本では考えられないノンビリとした毎日がここにはある．

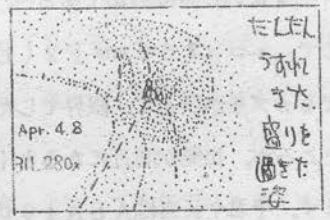
何だかんだで，ハレー彗星どころか星も見れないでいるうちに，時は過ぎ，天文台のすぐ近くで山火事まであったりして，これは火攻め・水攻め誰の所為だと責任のなすり合いでイライラをしのぐ‥‥これはいつものパターン．でなければビールやらトウバ（地酒のやし酒）でまぎらわすことになる．ヤシガニでも捕えて食べるとオイシイと夜道で捕えた．禁猟期で罰金が4.000ドルということも知らないで‥‥．

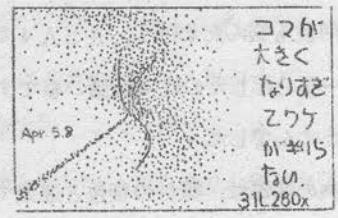
とうとう帰る前夜になってしまった．幸運にも晴れて2回目のハレー姿を拝んだ．スケッチを取ってすぐ空港へ走って機上の人となった．3月のサイパンはハレーの無い話しかできない．（続く）











オーストラリアへ旅をして

艶島　敬昭

早いもので，ハレー最接近の日からもう1カ月余．私には，旅の興奮も冷めやらぬまま，アッと言う間に過ぎてしまいました．

今回のオーストラリアへの旅は，県民天文台が後援した最初の天体観測ツアーで，産交さんも初めての試みでした．私にとっても，解説者として参加するという事で，期待と不安が交錯する旅でした．計画がスタートしたのはかなり早く，昨年の春頃からで，9月には宮本台長と九州産交のS氏とが現地に行かれ，東部のオレンジ・バサースト付近や西部のパース近郊を入念に調査し，空や施設等の条件を詳細に検討した上で観測地が決定されました．

その後，色々な問題点を克服して，オレンジコースへ3組，パースコースへ1組，それにサイパンコースへ1組が旅立つ事になりました．多勢が出かけたオレンジコースとは違う意味で，私の行くパースコースは，機械運搬等一人でこなさねばならない感じで「失敗は許されない」というプレッシャーを感じつつの旅立ちでした．

観望用の望遠鏡としては，ミザールAR－1赤道儀にMT－130反射を載せ，別にカートン製11×80双眼鏡と三脚を用意しました．

写真撮影は，当初MT130＋レデューサーを考え，ガイド用にP型65mmを準備し，メトカーフ・ガイド・クロックの製作，ガイド用アイピースの準備もしましたが，飛行機での運送によりMT130の光軸修整ネジがかなり緩んでいた事や極軸望遠鏡にもビスの緩みでガタが出た事等の為，実際にMT130直焦点を使う事はできませんでした．

1月～3月の熊本での各種レンズによるテスト撮影の結果，とにかく空の暗い所で，Fの明るいレンズを使い短時間露出で撮る事，フィルムはサクラSR1600が良いとの結論を出していましたので，ニコン200mm F2（ED）レンズを調達しました．熊本（天文台）の空では，3分露出でもカブリがひどく，限界でしたが，オーストラリアでは大丈夫だと思っていました．

ところが，出発が間近になると「本当にこれで大丈夫だろうか？」と不安ばかりが次々にわいてきます．T君やK君はASA400のフィルムでジックリ写すと言っているらしいのです．．．

何度も悩んだあげく，ASA400のフィルムを買い足しました．

一番心配したのは英会話の事ですが，本を買ってバッグに入れたっきり，ほとんど読むヒマもありませんでした．

次の問題は，機材の梱包と運搬です．9日間の日程で8フライト（実際は9フライト）もあるの

で，一人でも運び易く，出し入れにも時間のかからない事を心がけました．従って，下着で部品をくるむ様なやり方はせず，赤道儀一式はキャスター付のスーツケースに，カネライトベニアを型取りしながら貼り合せたクッション材を入れ，部品が動かない様な専用ケースを作りました．

もう一つは，MT鏡筒用の段ボール箱にカネライトベニアを貼り付け，周囲と要所を補強し，取りはずし可能なフタとキャスターを付けました．製作費約1万円．鏡筒の他，三脚，ガイド鏡，5cm双眼鏡，フィルム等を詰め込むと，18kg．さっきのスーツケースは24kgでした．

他にはカメラバッグ（8kg），着替を詰めたバッグと貴重品用ショルダーバッグ，ウェスト・ポーチ，これで全部です．

熊本→羽田→成田（泊），成田→ジャカルタ→デンパサール→機中泊→シドニーと，ほぼ2日間かかって到着．そのままシドニー市内観光ですが，この時期のオーストラリア大陸は日本よりも狭かったらしく，日本では滅多にお目にかかれない天ガのTa氏に何度も出会いました．空港ロビーで，浜べでそしてホテルで‥‥　夜には，天ガのツァーに同行させて頂いて，オイスター・ベイのアマチュア天文台を見学する事ができました．Taさん有難うございました．

ここは，サザランド天文同好会の所有で，シドニーからバスで1時間位の住宅地の中にあり，40cm反射（自作）を備え，毎週木曜日に一般公開しているとのことで，20年以上続いていると聞きました．その夜は残念ながらベタ曇で星も見えず，ワインを頂きながらの交歓会を楽しみました．記念の絵葉書を買いながら，我が天文台にも絵葉書位いるんじゃないか？と考えました．

翌早朝，一足先に起きて添乗員の斉藤氏と空港へ．今日から3日間，パースで1人暮らしをする予定なのです．空港へ向うタクシーの中で，「どこの航空会社か？」と聞かれて，「TAA」（ティー・エー・エー）だと答えると，「それはきっとTAAだ」（ティー・アイ・アイ）と言う．

そういえば，オーストラリアではA＝（アイ）だと気が付いて納得，次いで「どこへ行くのか？」と聞かれたので「パース」と元気良く答えると，今度は，「そんな地名は初めて聞いた！」と言う．5分以上も言い合いっこをしていたが，運転手がしびれを切らして「P・E・R・T・H」‥‥（ペース！）というので，「パース」は「ペース」だとやっとわかった．いよいよ1人旅がこわくなる．

アデレート空港へ降りるまでに，お隣の若い女性と親しくなった．といっても先方は9才（もうすぐ10才だと言っていたが）のおチャメな女の子，母親と一緒にブリスベーンにホリディで行った帰りとか．パースまで一緒だと知ると，さかんに話しかけてくる．等身大のコアラ人形がすごい．

こちらも，「日本人はつき合いが悪い」と言われたくなくて，必死にしゃべろうとするが，「アウ・アウ・・」，と無意味な単語が頭の中を飛びかうばかり．ただニコニコと彼女の話しを聞き，

母親の根気強い説明でやっと理解する．睡眠時間のつもりが，大変な4時間半となった．

しかし，幸運にも，彼女がコックピット見学を許されるらしい事を感じ取ったので，あつかましく同行して，一緒に入れてもらった．初めてのぞいたコックピットに感激！

空港でレンタカーを借り，ホテルへチェックイン．市内地図等を買い込んでいよいよ行動開始．

予想していなかった小トラブルの続出に少々おびえながらも，夕方にはガイドとも別れて単独行の開始．夜8時半頃ピーカンヒル着，日本から来ている学生，ＪＵＮ・ＫＥＩと一緒に観測体勢にはいる。

ガタのある極望にすがりついた所で気がついた．目をつぶると身体が大きくゆれるのだ．何と，飛行機に乗りづくめだったので，飛行機酔いになったらしい．これでは，とてもメトカーフやらガイド撮影やらはできそうもなく，気ばかりがあせる．更に，初めて見る南天の銀河は予想を超えて明るく，ハレー彗星の輝きをのみ込んでしまう程で，すっかりドギマギしてしまった．

一度血が上ってボーッとなった頭は，以来冷める事なく，当初の計画など吹き飛ばしてしまい，私本来の「ズボラ流」が開禁となった．

当夜（４／７～８）はセッティングと撮影．次の夜は霧から明け方には小雨と最悪のコンディション．寝れないまま９日午後の日食観測．しかし，食分が最大となる前に曇ってしまい，更に小雨模様．

夕刻，ツァーの一行をピーカンヒルで出迎える頃には，絶望的な雰囲気．ＪＵＮとＫＥＩにワインの調達を頼んだ．酒盛でもするしかないと思ったからだ．

しかし，好運にも８時半頃に雲の切れ間が出る．それっとばかりに望遠鏡・双眼鏡に殺到する．

初めのうちは，ハレー付近には雲があって，なかなか姿を現わさない．南十字，α，β ケンタウルス，大マゼラン，小マゼランとやっているうちに，やっとハレーが見えると「素晴らしいー！」の声が次々とおこる．記念にと用意して来られた葉書にスケッチを頼まれたり，写真撮影の手伝いをしたり，解説したりで，あっという間に時がたつ．２３時半頃，皆がホテルへと引き上げ，さあ！と身構えると空は曇！非情にも３時頃になっても晴れない．あきらめてホテルへ帰る事にする．

２０分程車を走らせただろうか？窓の外が気になって車を止める，空を見上げると快晴！そこで道端に車を止め，固定撮影をする．銀河の巾も輝きも日本で見る時とはまるで違う．スゴイ！

間もなく黄道光が見え始める．こんなに美しい銀河も黄道光もはじめてだ．１８０°の天の川．

翌朝，ほとんど寝る間もなく街へ出かけ，お土産を買う．

４月１０日，オーストラリア最後の夜は快晴．ピーカンヒルで見る夕焼と金星が大変素晴らしい．食事も忘れて撮影する．後をふりむくと，ユーカリの木の向うに，もうハレーが見えている．いき

なり星が輝きはじめる．これが最後のチャンスだと，一般公開（我々独特の表現か？）しながら，同架したカメラで撮りまくる．皆，昨日の位置を覚えていて，「今日はだいぶ動いている」と言いながら，なれた手付きで双眼鏡をのぞいている．

またたく間に時は過ぎ，２３時頃「もう終わりますよ！」と催促されて，「最後の一枚だけ」と頼んでシャッターを切った．思えば，この一枚こそが記念すべき一枚となったのだ．

アタフタと機材を詰め込み，バスに乗り込んでしまうと，さすがに名残りおしかった．わずか４日間とはいえ，オーナーのロッド氏の心使いのお蔭でとても快適な観測ができ，観望会ツァーも大成功を収めることができたと思う．お客様にも喜こんで頂けた事で，心労も疲れも睡眠不足も全部吹き飛んでしまった．

翌朝，軽快な私の声で立ちに「バース・ボーイ」との賞讃の言葉が贈られる．真夫な砂漠を飛び超え，バリ島のエビ料理に舌つづみを打ち，夜行便にて日本へ！

全くの見ず知らずのメンバーを集めた旅とはとても信じられないような，親しみと楽しさの中にこの旅も終わる時が来た．何名かの天文ファンが生まれ，数名の海外旅行症候群患者を生み出し，そして又，数名のオーストラリア病患者を生み出すであろう旅は終った．

楽しい旅を支えて下さった全ての方々に，心から感謝の言葉を送りたい．

※　次は５年後，ハワイ皆既日食ツァーを！と言っていたら，さすが宮本氏．「いえ，来年の沖縄金環日食へツァーを組みましょう」　完全に一本取られてしまった．

★ちょっと一服コーナー★

オーストラリア・オレンジ観測旅行記

高田　祐一

4月1日から4月15日までの2週間あまり，私は宮本先生と旅行会社の添乗員の猿渡さんに同行してオーストラリアへハレー彗星観測旅行へと行ってきました．

ツァーのはじめの予定では，ハレー観測2夜を含む7泊8日でしたが，「できるだけ観測できる日を増やして欲しい．」と猿渡さんに頼みこんで，一般のツァーから離れ，ツァーのお客のお世話をすることになっていた，宮本先生，猿渡さんに同行できるようにしてもらったのです．

☆　では，出発！出発！　☆

4月1日，父の運転する車で，私と宮本先生は福岡空港に着きました．出発前に宮本先生は，「私の持っていく望遠鏡はたいぎゃな重かですよ．」と言われて，こちらも覚悟はしていたのですが，出発日，大きなボール箱5箱に　包された20cm反赤を見て正直ア然としました．さて最初の難関はその荷物を空港2階のロビーまであげることでした．正味2分間悩んだあげく，下の階で1人が荷物をエスカレーターに載っけて，上でまちかまえていた1人が受け取ることでなんなく解消．そして第2の難関はその荷物の機内あずけ．「機内あずけは原則として1人20kg」の範囲では100kg近い20cm反赤はもとより，自分のトランク（ポータブル赤道儀やカメラ一式をつめこんでいる）でさえ，重量オーバーになってしまいます・・・が，そこはよくしたもので，機内あずけにいっていた猿渡さんが「いやぁ，助かった，空港が混雑していたので（荷物係が）ぜんぜん計らずに機内にいれてもらえた．」と喜んで帰ってきました．

福岡空港で九州の第1グループの人達と合流（第1グループには九州と東京の人がいるのです．）2時半，成田に向けて出発．（実はこの時，生まれて初めて飛行機に乗りました．イヤァ怖かった）成田空港で東京のグループと合流．この中に，前回出現のハレーを見たという，おじいさん（81歳）がおられて，「飛行機なんか今まで怖くて乗れなかったけど，もう一度ハレーを見たくてこのツァーに参加しました．」と話されて，びっくりしました．

夜の9時半，オレンジのラインが美しい，カンタス航空のボーイング機で成田を後に南へ向かいました．

☆　シドニーにて　☆

翌朝早く，シドニー空港に着きました．空港の税関で早くも，望遠鏡の入ったダンボール箱が目をつけられ，一つの箱は開封して中を見せなければなりませんでした．係の人がまたけげんそうな顔をしていたので，宮本先生がとっておきのハレーの写真（天文ガイドに載ったやつです）を見せ

て納得してもらいました.

シドニーの空は快晴. それもちょっと日本では見られないような空の色でした. よく「ぬきわたる」様な空といいますが, あまり「ぬき」すぎて青い色が伝わってこない様な感じがしました. それに日ざしが強い! 春先の日本から, 残暑のシドニーへ来たものだから観光地で汗ばかりかいていました.

その日は1日中シドニーの市内観光. 夕食は, ツァーの皆さんといっしょに, 日本料理店「西陣」で, 「しゃぶしゃぶ」や, 近海でとれた「さしみ」に舌鼓みを打ちました.

☆ オレンジへ ☆

「オレンジ」という町はシドニーから西へ約500Kmに位置します. 去年, 宮本先生と猿渡さんが下見に行かれ, そこの牧場を観測地として選ばれていたのです. 人口は3万5千. (世界地図を見たら, 熊本市は載ってないのに, 何とオレンジは載っていたんですねえ.) オレンジなのになぜかりんごが特産物なのです.

シドニーのホテルで一泊したあと, 私と宮本先生と猿渡さんの3人は, 第1グループより一足先にレンタカーでオレンジへ向かいました. 借りてきた車は3300ccのライトバン. それに荷物をつみこんで, 昼前に出発! 途中, 一カ所道を間違えたぐらいで無事シドニー市街を脱出しました.

市街地をぬけると, あたりにオーストラリアらしい草原が広がってきました. 車はそこを制限速度120Kをちゃ〜んと守って走ります. 途中, 「急カーブ! 安全速度95K! 」の標識があって, 車の中で3人とも笑ってしまいました.

夕方4時半, 無事オレンジに到着. すぐ, 町のインフォメーションセンターにそこの所長をしておられる, ドン・エブラハム氏を訪ねました. 去年, 宮本先生達がオレンジを訪ねられた時, 観測地の牧場をお世話して下さった人です. ちょっと小肥りした人のいい方で, 今回日本人が多勢訪れることを大変喜んでおられました. 話をしていると, 地方紙の女性記者とカメラマンのペーター・サワさん(この方は6年ぐらい前, 日本から家族といっしょにオレンジにやって来られたそうです)が訪ねて来られて, 取材をしていかれました.

☆ いよいよハレー ☆

モータインに荷物を落ろしたころには, 空は暗くなり始めていました. 空は快晴! さっそく星見, ハレー見・・・とはいかず, 部屋の中で望遠鏡の組み立てを始めなければなりませんでした. 何しろ, はるばる日本から持ってくる為, バッラバラに分解しつくしているのです. これで, ゆうに1時間半はかかってしまいました. ここでオーストラリアで大活躍した宮本先生の20cm反赤について説明しておきます. 架台はタカハシのT160型. 鏡筒は20cm鏡と斜鏡, 接眼部分の入った2

つの木製の箱をL字型のアルミのフレーム4本で固定したもので，持ち運ぶときは分解できて，コンパクトになります．この20cmも宮本先生自身が十何年か前に磨かれたものです．さらにこの望遠鏡の一番の特徴は，斜鏡・接眼鏡部分だけが回転することで，これによってどの方向に筒先を向けても，楽な姿勢で覗くことができます．一方・・・私の持っていたカートン光学のスーパーノバは極軸のみのポータブル赤道儀で写真撮影のみに使います．極軸望遠鏡の中には自作オリジナルの極軸セッティング用のパターンが入れてあって，これでセッティングをしたのですが，なにしろ初めてのことで，撮影中星を本当に正確にガイドしているのか気が気ではありませんでした．

さて準備も終わり，ドン氏の車で前を案内してもらって，観測地へ向かいます．町をぬけるとそこは一面の星のもと．南天の銀河が夜空に横たわっています．その中に，南十字・ケンタウルス・，など見慣れぬ星々が輝いています．この星々はものすごく，感激のあまり車の窓から頭をつき出してワアワア騒いでいたのは私だけではなかったようです．

観測地の牧場の入口でまたまたすごいのを見てしまいました．「Welcome Halley's Comet ・・・」などと書かれた見事な横断幕の上に赤や黄色や緑のランプがピッカピッカに光っているのです．このオレンジでも町でハレー観測ツァーを計画して観光客を集めているのがすぐわかりました．牧場の小屋の休憩所にはコーヒーやハレーをデザインしたTシャツが売ってあり，ハレーのビデオの上映会があっていました．さらに，見晴しのいいところに，ミード社の25cm反赤がすえつけられていて，スチュワートという人がさかんにこちらのお客さんにハレーを観せておられました．

「ちょっと困りましたね．こんなに他のお客さんが多くては，こちらはおちおち観測もできませんなぁ．」と宮本先生が心配されてました．一応そのミードの望遠鏡のそばに20cmを組みたてて空を見あげると・・・あったあった！さそりの尾の中にハレーが行儀良く並んでいます．双眼鏡で見ると，さすがに銀河の中だけあって尾の先の方は星々に溶けこんでいますが，コマの部分は異様にでっかくなっています．それから盛んに　星団や，りゅうこつ付近の散開星団をながめていました．ところがさっきの宮本先生の心配が適中して，何やら酒くさい若者が何人か連れ立ってやって来たのです．片手にはビールびん．それで車を運転して歌いながら来たものですから，イヤハヤ．（なんでも隣の牧場からやって来たそうです．）とにかくその日はただ覗めるだけにとどめといて早目（と言っても午前1時ですが）に切りあげました．

☆　ハレーブーム　☆

翌朝，ぶらっと1人で街中を歩いてみました．土地が余っているだけあって，道路はちゃんとしきられていて，どこでも片側3車線！！そのうち建物沿いの1車線はパーキングスペースとして，

確保されているので，どの店に行くのにも車で乗りつけられます．ただあまりに道幅が広いので，歩行者用信号が青になって渡り始めても，途中赤に変わってしまいます．スーパーの中には入ってみました．売ってある物などは日本と少しも変わりませんが，食料品がめちゃくちゃ安い！特に肉の安さにはサスガにオーストラリアだと実感させられました．郵便局（歴史を感じさせられるどっしりした石造りの建物です）の中には，ハレーの記念切手が売ってありました．通貨の単位が違うのでよく見たらよその国の切手ばかりでした．そしてカウンターの奥にヒョコヒョコ動いている火の玉みたいなハレーのかざりもの．ハレーブームは日本だけじゃないんだなあと感心しました．実際，土地の人達もハレーに関心があるらしく，モータインのお客さんや店の人に「日本からハレーを見に来た」と言うといろいろ質問してくれて，英会話がぐんと上達は・・・しなかったな．

☆ LOST OUR WAY ☆

4月5日のことでした．この日シドニーで別れた第一グループがオレンジに到着．

「じゃあ僕はお客さんといっしょにバスに乗って牧場へ行きますので，お2人は車で行って下さい．高田君，道はもう覚えたでしょう？」と猿渡さんが宮本先生へ車のキイを渡されたのがそもそもの始まりでした．実は2人とも車の中では，星を見ていたり，寝ていたりしてあまり覚えてなかったのです．それでも私が（まあ地図もあることだし，大丈夫だろう）とたかをくくっていたのが大きな原因でした．さらに・・・地図の上に印された牧場のある×印が実は間違がっていたんです．それに　不慣れな外国の夜道，まわりはユーカリの木ばかり・・・．

出発から2時間後，2人でさんざん道を迷ったあげく牧場に到着した時は猿渡さんが青くなっていてパトカーにも出てしまう始末．宮本先生はお客さんの拍手で迎えられました．

「あの時はあわてて君のお父さんの顔が浮かんだよ．」と猿渡さんがあとで話してくれました．

☆　徹夜！徹夜！　☆

なんとオレンジに到着した4月3日から11日まで9日間も快晴の日が続きました．昼間，少し曇っていても，夜になると見事に晴れてくれて後からうんざりしてきました．車でモータインに帰ってくるのは朝の6時半！それから寝て起き出すのが昼すぎになってから．そんな日課がずっと続いたのですから．それでも星々がすごいので夜通し起きてしまう．特に接近日のころのハレーは，尾を110°にも開いて，彗星らしからぬその姿を「おおかみ」に浮べていました．

4月12日に曇ったときは正直ホットしてぐっすりと眠れました．

☆　最後に　☆

こうして，観測は4月3日から4月13日まで続けられ，その間，第1・第2・第3グループとオレンジを訪れすべての人にハレー見てもらって満足してもらいました．私自身，10日間の観測はこ

れまでにない長いものとなりました．南半球で見たハレーや銀河のすばらしさは到底忘れることはできません．最後に，添乗員としてまた旅の良きパートナーとしていろいろお世話して下さった猿渡さんにお礼を言って結びとします．

星見と自己紹介

平川　照寿

こんにちは☆☆☆！　三月のハレー彗星観測会に来られた方は，ご存じと思いますが，菊池郡より，自転車で来た平川照寿です．　では自己紹介をしま～す．．．

ただ今‥‥熊本県立農業大学１年生もちろん寮ですが時間があれば天文台へ行きたいと思っています．

身長　‥‥１６５cm　体重５２kg　　昭和42年10月５日生まれ．

足　‥‥‥自転車（まもなくすぐ自動車になる予定）

将来は‥‥まだ決まってないが，いろんな人に星のことを話したい．

愛機　‥‥高橋のＭＴ１００とＦＣ５０　ニコンNewFM2

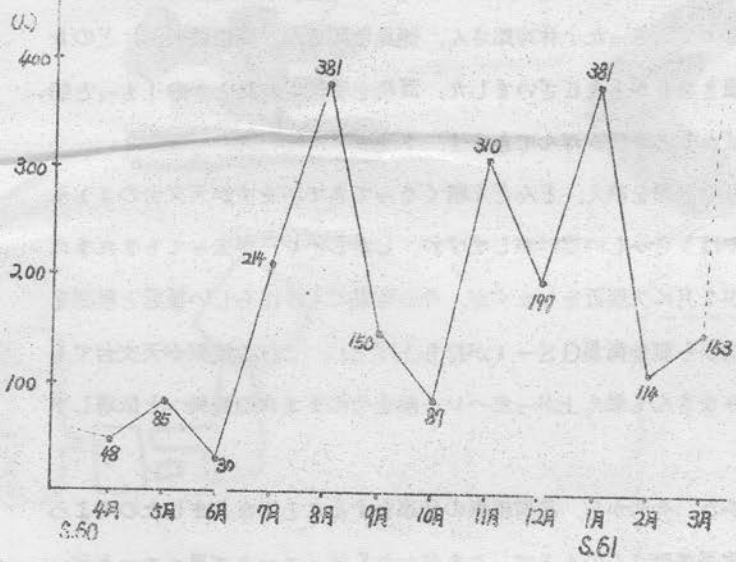
☆　○　☆　○　☆　○　☆　○　☆　○　☆　○　☆　○　☆　○　☆　○　☆

私が星を見るようになったのは，小学校三年生の時でした．そのころは，北斗七星やオリオン，さそり座ぐらいしか知りませんでした．そうやっているうちに高校生になり自分の望遠鏡があり，今は，主に月や土星，木星などを中心にメシエ天体を見ています．今の目標としては，いい写真をたくさん写すことです．私の自宅（七城町）の回わりも最近は光害が少しずつ増え苦労していますが，最近は，友人の力を借り望遠鏡を運ぶ次第です．つい先日，山鹿市にある模型店の方々と近くの不動岩で星見を楽しみましたが，光害が強くハレー彗星を見るのに，大変苦労しました．結局見えたのですがハレー彗星かどうか確認できませんでした．最後に，これからいろいろとお世話になることがありますがよろしくお願いし私の自己紹介とさせていただきたいと思います．

七城町の天文ファン　平川照寿より

S60年度　天文台利用者状況

図1 月別来台者数の変化



・総来台者数

S.61年3月現在　9989人

4月現在　10682人

・60年度来台者数　2150人

図2 地区別来台者数

熊本市	城南町	その他
(46%)	(18%)	(36%)

図3 男女別来台者数

男性	女性
(53%)	(47%)

図4. 年令別来台者数

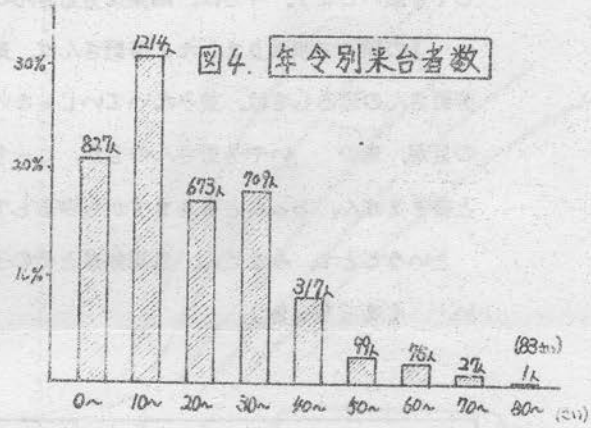


図5 会員の天文台利用者数

・会員来台者数

60年度　1206人

編集後記

星屑５月号いかがだったでしょうか？　今回はページ数をいつもの２倍にして，ハレー彗星観測大特集にしてみました．記事を書いて下さった小林寿郎さん，艶島敬昭さん，高田祐一君，どのお三方もたくさんの記事を書いて頂きありがとうございました．原稿を手渡されたときの「もっと記事を書きたいよー!!」と言わんばかりのお顔が浮んできます．？

さて，ハレー彗星は７６年ぶりの回帰を終え，どんどん暗くなってきていますが天文台の３１センチで今みる暗いハレーには，やはりさみしい思いがしますね．しかしハレーが去ってもまだまだ忙しい月が続きそうです．火星が７月に大接近をしますが，今の時期でもすばらしい極冠と模様を見せています．８月には，内之浦から測地衛星ＧＳ－１が打ち上げられ，これの観測が天文台でも行われる予定になっています．みなさんも燃え上がったハレー熱をそのまま次の観測へと伝導しましょう．　（芳野）

今日は，いや今晩は，がいいかな．今号から，星屑編集の仕事をすることになりましたのでよろしくお願いします．今号は，編集長芳野さんのもとで，こき使われ『雨ニモマケズ風ニモマケズ・・・・・』の精神で頑張りました！芳野さんは，鬼だ，閻魔様だっ！ウウッ・・（苦しそうに泣く）芳野さんの恐ろしさは，並みたいていじゃないっ．どう書けばいいんだろう？ウーム．ウワッ．あの目が，鬼の　いや芳野さんの目が，こっちをにらんでるっ！スイマセン，スイマセン．変なこと書きません，ちゃんと書きますからゆるしてくださいよお・・・．

ということで，みなさん，鬼編集長とその子分が，まってますからどしどし天文台へきてください．　（まっちゃき）

熊本県民天文台機関誌「星屑」　１９８６年５月号　通巻第１３８号

発行所　熊本県民天文台　〒８６１－４２　熊本県下益城郡城南町藤山

TEL　０９６４－２８－６０６０

熊本県民天文台事務局　〒８６０　熊本市古京町３番２号　熊本博物館内

TEL　０９６－３２４－３５００

編集担当　芳野浩之　松崎達二